

世界自然遺産推進共同体の活動について

(奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産地域連絡会議資料)

2024年2月21日

世界自然遺産推進共同体



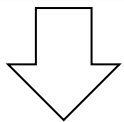
奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島
世界自然遺産

目次

1. 世界自然遺産推進共同体設立の背景、組織概要
2. 共同体構成企業・団体の業種別加入数
3. 共同体活動活性化のための工夫 1～4
4. 地域連絡会議 行動計画と共同体活動の関係
5. 主な活動のご紹介（ロードキル対策関係）

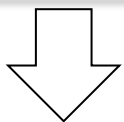
世界自然遺産推進共同体設立の背景、組織概要

2018年 世界自然遺産登録延期



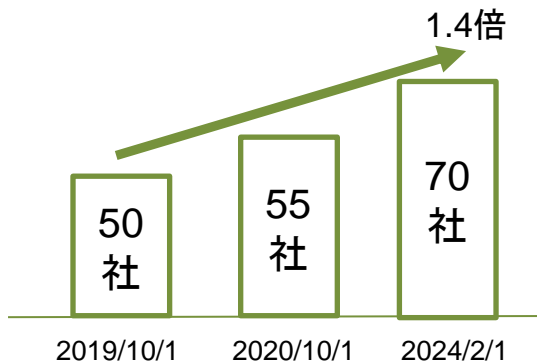
- ◆環境保全と気運盛り上げに官民一体で取り組み、登録に貢献
- ◆先代から受け継いだ宝を次世代に

環境保全と地域振興策の両立の必要性



2019年8月 世界自然遺産推進共同体 発足

- 代表 : JAL鹿児島支店長
副代表 : JAC取締役、ドコモCS九州 鹿児島支店長
事務局長 : JAL奄美営業所長
構成員 : 70社 (奄美群島・鹿児島県内外の企業・団体、2024年2月1日現在)



構成企業・団体

地区		数	占有率
奄美群島	奄美大島	36	51%
	徳之島	11	16%
	喜界島	2	
	沖永良部島	1	
	与論島	1	
	小計	51	73%
他	鹿児島	18	
	県外	1	
計		70	100%

業種		数	占有率
1	観光物産団体	9	43%
2	旅行業	5	
3	ガイド業	4	
4	航空	3	
5	空港ビル	3	
6	ホテル	2	
7	フェリー	2	
8	タクシー	1	
9	飲食	1	
1	マスコミ	6	57%
2	酒類製造販売	6	
3	銀行信託	5	
4	卸売業	4	
5	建設	4	
6	大学・研究所	2	
7	小売業	2	
8	電気・ガス	2	
9	通信	2	
10	郵便	1	
11	保険	1	
12	経済団体	1	
13	警備	1	
14	病院	1	
15	化粧品	1	
16	コンサル	1	
計		70	100%

(注) 業種名称は、日本標準産業分類とは異なる

共同体活動項目

(1) 希少種及び自然環境の保護

- ・環境保全のための「清掃活動（外来種除草作業・クリーンキャンペーンなど）」を適宜開催し、希少種および自然環境の保護・保全に努める。

(2) 世界自然遺産に関する普及啓発、調査・研究等

- ・共同体活動をマスコミ、SNSなど各種媒体を活用し発信、奄美群島における世界自然遺産に関する意識と自然環境に関する意識を醸成する。

(3) 密猟・密輸防止対策

- ・「水際防止対策」や「パトロール」など、環境省・鹿児島県が実施する密猟・密輸防止対策に積極的に参画。

(4) 行政による普及啓発等への参加及び協力

- ・行政による各種シンポジウムや普及活動へ積極的に参画する。

(5) 希少種及び自然環境の活用を通じた地域貢献・地域振興

- ・自然環境の保護管理に係る機関と連携し、科学的知見に基づいた適切な保護管理を通じ、地域貢献、地域振興を促進する。

(6) SDGsの推進による社会の持続的発展への貢献

- ・自然環境の保全と活用の循環モデルの確立をめざす。

(7) その他共同体の目的達成のために必要な活動

共同体活動活性化のための工夫 1 : 活動体系の共有

【最上階の層】共同体全体での活動

環境保全と活用の両立により持続可能な奄美群島作りに貢献していくために、
参加企業/団体の皆さまと一緒に考え取り組んでいく大きな目標

【三層目】企業/団体としての活動

自社の特徴を活かし、環境保全への貢献と企業利益に繋がる取り組み
買い手も満足する三方良しの形

【二層目】個人としての活動

「外来植物の駆除作業」、「自然観察/体験」「世界遺産シンポジウム参加」等、
世界自然遺産を知る・守るための入口

【一層目】個人としての活動（どなたでも気軽に参加できる活動）

ビーチクリーン等、島を大事にしていくという個々人の思いの醸成/拡張

保全と活用の両立による持続可能な島



魅力（自然・文化）の適切な活用



守る・磨く



島のこと、
島の宝のことに
関心を持つ、知る

共同体活動活性化のための工夫3：こまめな情報の共有

◆2019年8月の共同体発足以降、参画メンバー及び後援行政機関に対し、事務局から、eメールで各種情報や案内を周知/共有

- ・講演会、シンポジウムの案内
- ・各種イベントの案内、報告
- ・共同体メンバーのSDGs取組み等の紹介

◆2020年9月～「世界自然遺産推進共同体通信_発信日付」を発行

- ・月平均3回程度

【2021年11月27日_世界自然遺産推進共同体通信】

アマミトゲネズミ繁殖のためのシイの実拾い実施ご報告

共同体構成メンバーの皆さま

共同体後援官公庁・自治体の皆さま

お疲れ様です。

下記でご案内しましたシイの実拾い、11/21 に楽しく無事実施することができましたので、ご報告申し上げます。

参加者は、共同体の島内メンバー企業の社員やご家族総勢36名。

今年は並作で、凶作だった去年の約6倍の4.7kgを島の自然を感じながら楽しく集めることができました。

ご協力いただきました奄美市立奄美博物館学芸員 平城達哉さまにあらためてお礼申し上げます。

下記、参加者の皆さまのアンケートを拝見しますと、共同体活動の目指す「まず興味を持つ・関

アマミトゲネズミ繁殖のためのシイの実拾いを実施しました

～2021年11月21日 世界自然遺産推進共同体～

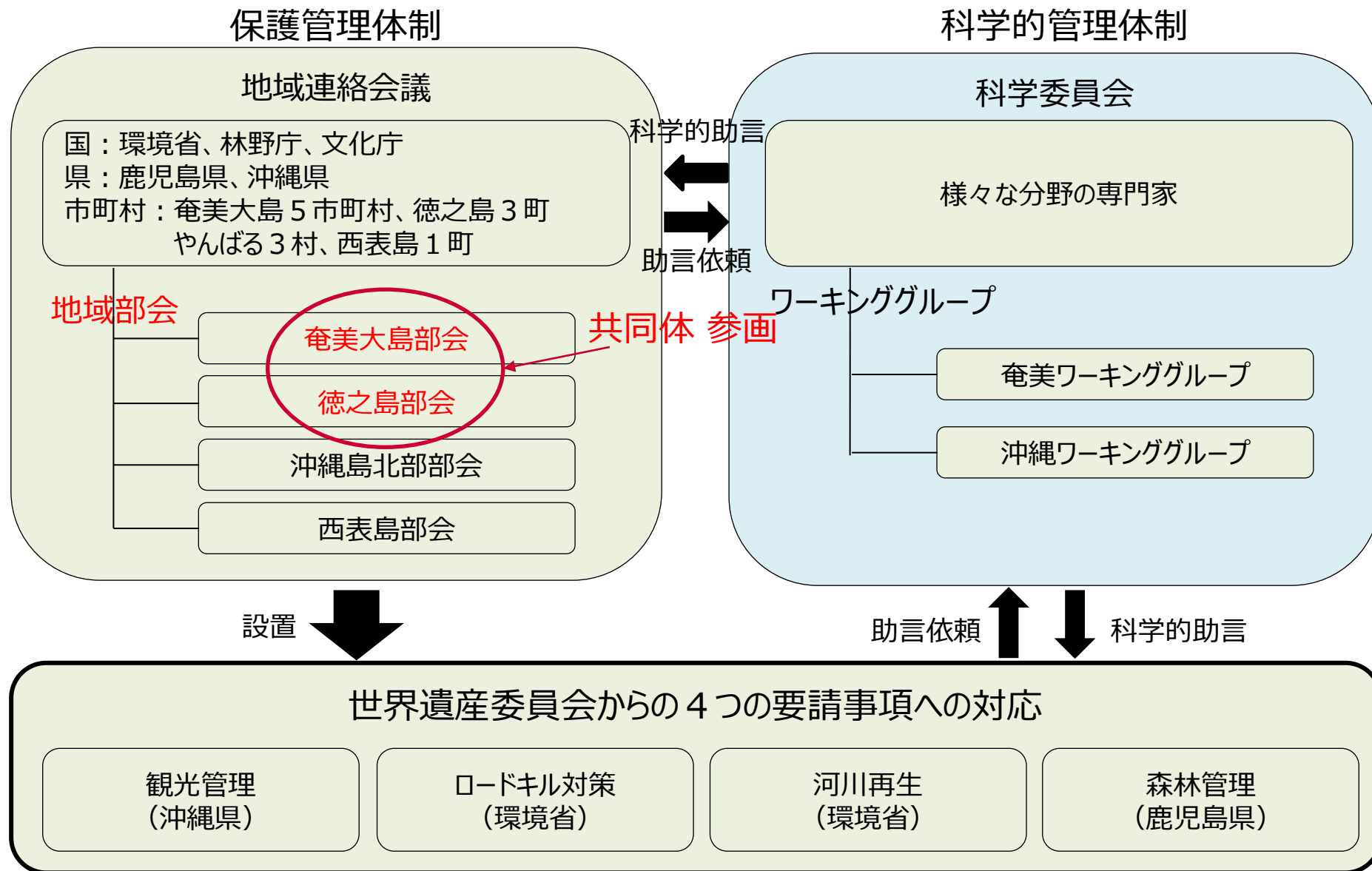
奄美大島にしか生息しない国の天然記念物・アマミトゲネズミの絶滅の危機から救うために、埼玉県こども動物自然公園、宮崎市フェニックス自然動物園、神戸動物王国、東京都井の頭自然文化園など全国7園の動物園で飼育され、繁殖などの取り組みが行われています。

シイの実が落果する今の時期、これらの動物園にアマミトゲネズミの好物であるシイの実を送るため、奄美市立奄美博物館学芸員 平城達哉さまのご協力の下、昨年に続き「シイの実拾い」を11月21日（日）笠利町蒲生崎観光公園にて行いました。共同体の島内メンバー企業の社員やご家族総勢36名。今年は並作で収穫量は凶作だった去年の約6倍の4.7kg、シイの実を食する公園の生き物たちのことも意識しつつ島の自然を感じながら楽しく集めることができました。

◆最初に平城さんから、アマミトゲネズミの生態や本土の動物園での飼育保全の取り組みを紹介していただきました。～笠利総合支所にて



共同体活動活性化のための工夫 4 : 官公庁の保全活動との連携の密接化



地域連絡会議 行動計画と共同体活動の関係

事業項目（大項目）	共同体も取り組んでいる活動
1) 保護制度の適切な運用	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 希少種の保護増殖事業への取組協力 <ul style="list-style-type: none"> ・国内動物園で飼育増殖されているアマミトゲネズミのためのシイの実集め ・ルリカケスのヒナの航空輸送時の手続き簡素化
2) 外来種による環境の排除・低減	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 外来植物駆除作業への参加協力 ◆ ネコの適正飼養についての普及啓発 等
3) 希少種への人為的影響の防止	<ul style="list-style-type: none"> ◆ アマミノクロウサギ等希少野生動物の交通事故対策 <ul style="list-style-type: none"> ・注意喚起、普及啓発 ◆ アマミノクロウサギ等の傷病野生鳥獣救護 <ul style="list-style-type: none"> ・傷病個体発見時の対応方法の周知 ◆ 密猟盗採防止のための空港での水際対策の実施 ◆ 関係機関との連携による盗掘・盗採事案発生時の連絡体制の周知 等
4) 緩衝地帯等における産業との調和	
5) 適切な観光管理の実現	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 利用ルールの検討会議参加、ルールの周知 ◆ 奄美トレイルの周知、利用促進 ◆ エコツーリズムの推進 等

主な活動紹介（過去事例含む）：ロードキル対策、質の高い観光保持

①奄美大島三太郎線周辺の夜間利用適正化のための現地立会い

- ・共同体は、適正化連絡会議の構成メンバーとして参加
- ・2022年以降のゴールデンウィーク、お盆時期、シルバーウィーク、年末年始の数日間



②ロードキル防止看板の夜間照明用ソーラー充電式回転灯を環境省に寄付

- ・奄美地区郵便局長会



③共同体総会（2023年12月）後に、参加メンバー全員でロードキル防止策を視察

- ・村道マテリア線に設置されている看板や飛び出し防止ネット等を夕刻に視察



④どうぶつレスキューボックスの配備促進

- ・太平電機ECOひいきプロジェクト

⑤共同体メンバー各社によるロードキル防止等の自然保護の普及啓発情報発信

- ・ホームページでの航空利用者への自然環境を守る取り組みの紹介～JAL
- ・自治体と連携し設置した無料Wi-Fiに接続すると、注意喚起を表示～ドコモグループ
- ・自治体と連携し三太郎線入口に車番認証・車速測定システムを設置
- ・自社メディアを活用した世界自然遺産エリア内での普及啓発情報発信～エアポートTVネットワークジャパン

